

2025年度以降の新規事業について

発表日：2024年12月18日

国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

発表者名 小石 拓弥

団体名（企業・大学名など）再生可能エネルギー部 バイオマスユニット 主任

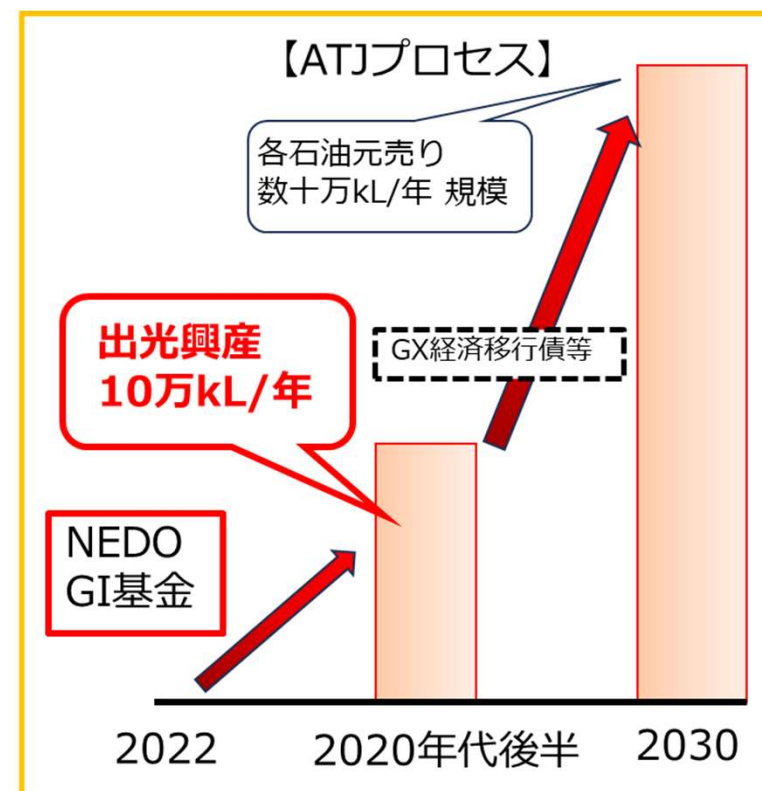
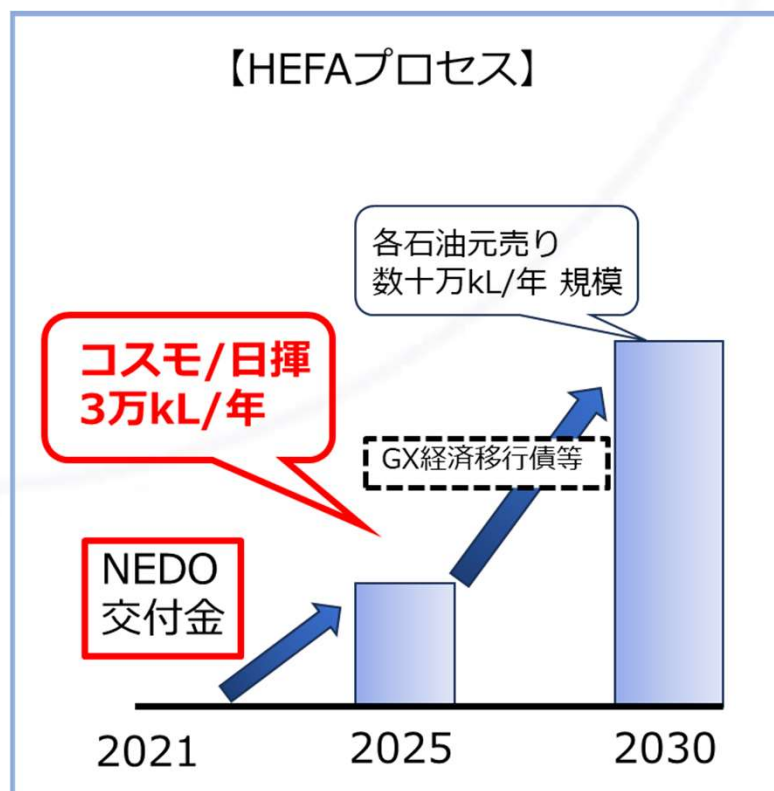
問い合わせ先 NEDO再生可能エネルギー部バイオマスユニット

E-mail: nedo.biofuel@ml.nedo.go.jp

2030年に向けた国内動向 -①



- ✓ NEDO事業では2024年度末時点で**HEFA実証プラント**運転開始 (3万kL/年)、2020年代後半に**ATJ実証プラント**運転開始 (10万kL/年)予定
- ✓ NEDO事業後は**GX経済移行債**の“初期投資支援(CAPEX)”/“生産時の支援(OPEX)”により更なる生産拡大を見込む



2030年に向けた国内動向 -②

- ✓ 2030年時点で燃料消費量の10%をSAFに置き換える目標。
172万kL/年の需要に対して**192万kL/年の供給**を見込む
- ✓ 上記供給は廃食油等由来の**HEFAプロセス**、第一次世代エタノール等由来の**ATJプロセス**で生産されたSAFが主となる。

SAF需給の見込み

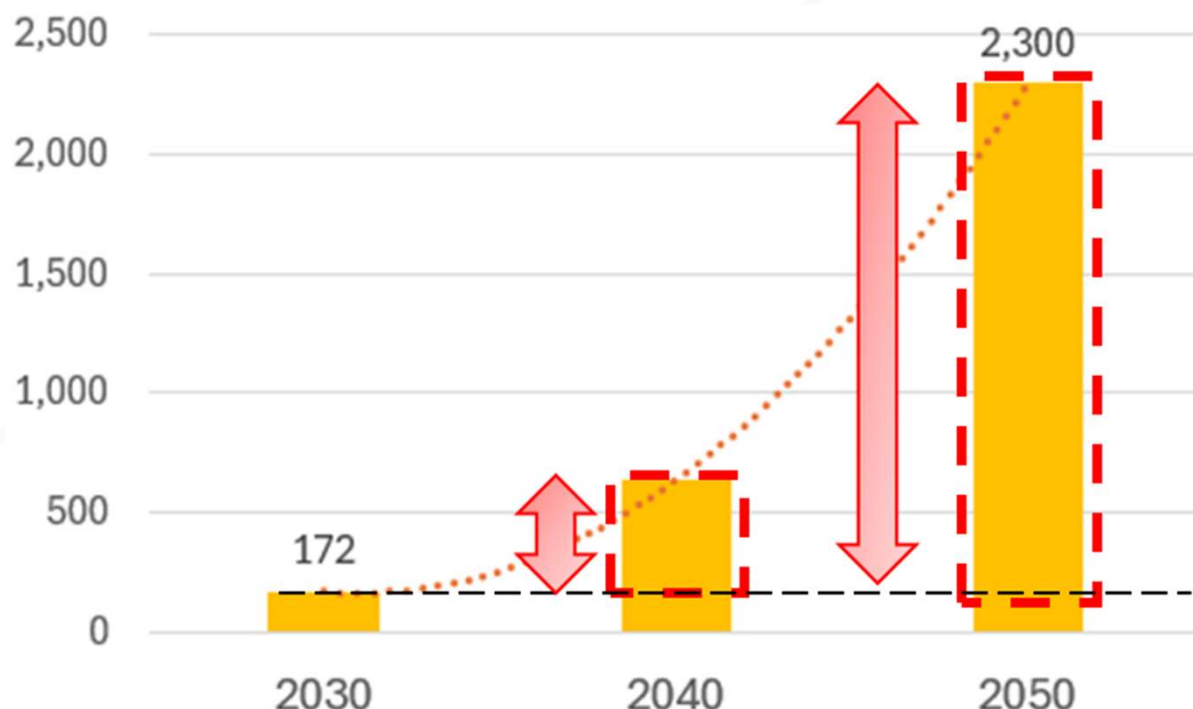


出典：国土交通省 第4回 SAFの導入促進に向けた官民協議会 説明資料 (2024/1/31)

2030年以降の動向予測

- ✓ 2030年以降もSAFの需要は拡大し、安定供給が可能かは不透明。
- ✓ 廃食油や第一世代バイオエタノール以外の**幅広い原料調達網の確保**、HEFAやATJ以外の**次世代生産技術の確立**が求められる

2030年以降のSAF需要予測



2030年以降
SAF需要がさらに拡大

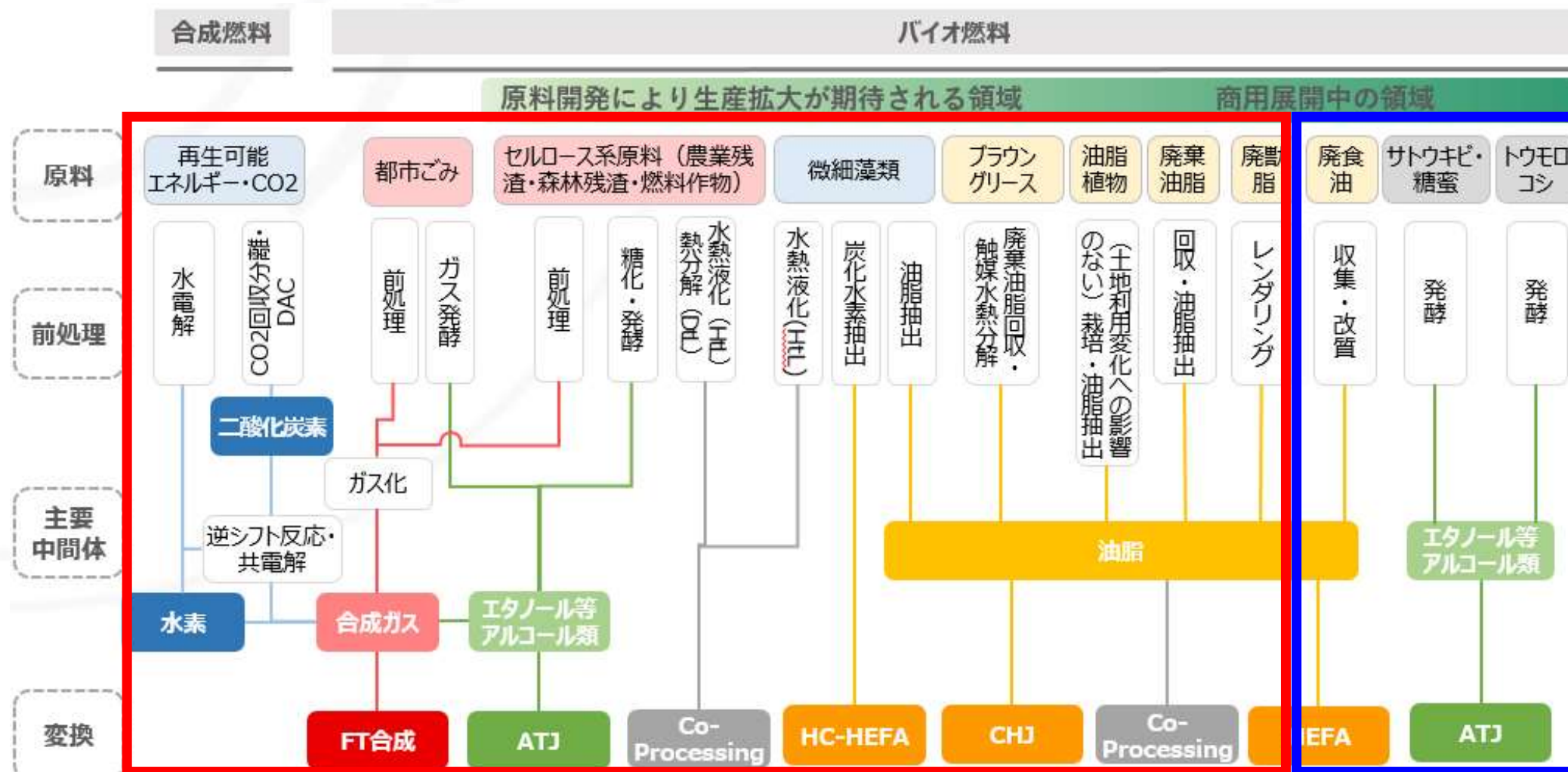
👉 原料・生産技術の
多様化が重要

2050年 航空輸送におけるCO₂排出実質ゼロへ向けて JAL/ANA共同レポートを基にNEDO作成

SAF原料と生産プロセスの組み合わせ

未成熟分野

既成熟分野



出展：MRI バイオジェット燃料生産技術開発事業／技術動向調査／国内外におけるS A Fの製造技術ならびに低コスト化技術に係る動向調査

2025年度以降の事業概要



【基礎情報】

★事業期間 : FY2025 – FY2029 の5年間
★予算総額 : 総額50億円程度（見込）
※FY2025：数億円（前半台）

【実施内容】

開発項目	実施項目	事業形態	想定規模	期間
①多様な原料を 利用可能なSAF 製造技術の開発	多様な原料を想定したガス化・FT 合成技術の改良・高度化	助成 (大企業1/2 中小企業等2/3)	数十億円 (前半台)	3-5年
	国内未利用資源を活用した事業性 調査	委託	数千万円	2年
②革新的なSAF等 製造技術の開発	コプロセッシングを用いた革新的 なSAF製造技術の開発	委託	数十億円 (前半台)	3-5年
③SAF原料の 多様化	パーム残渣、油糧作物、燃料作物 等の原料調達	助成 (大企業1/2 中小企業等2/3)	数億円	3-5年

<参考1>2025年度以降の事業想定内容



開発項目	内容・技術例	到達目標
①多様な原料を利用可能なSAF製造技術の開発	<u>内容：</u> バイオマスのガス化・FT合成技術の改良・高度化など <u>技術例：</u> FS、地域分散型でのバイオマス調達、前/後処理、ガス化・FT合成プロセス改善、LCGHG・コスト評価	・前/後処理、プロセス等の要素技術の改良・高度化 ・地域分散型モデルの構築など
②革新的なSAF等製造技術の開発	<u>内容：</u> Co-processing等の国内未開発技術の開発 <u>技術例：</u> FS、前/後処理、混合処理技術の開発、LCGHG・コスト評価	・革新技術の確立とパイロット規模での試験運転など
③SAF原料の多様化	<u>内容：</u> 賦存量の制約がある廃食用油に代替する新規原料の開発 <u>技術例：</u> 原料の開拓・収集、前処理、収集-運搬までのSC体制構築	・新規原料のSCモデル構築 ・前処理技術の開発 ・CORSIA等の国際認証取得に必要なデータの取得など

<参考2> 今後のスケジュール



• 2024年

- 10月～12月 : 事業内容・公募課題検討

• 2025年

- 1月下旬以降 : 公募予告開始（予定）
- 2月下旬以降 : 公募開始
- 3月下旬-4月下旬 : 審査期間
- 5月上旬以降 : 契約手続き開始

